

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 子どもたちとともに「こころ」と「からだ」を育む学校

1. 支援教育の専門性や指導技術の向上をめざすことで、児童・生徒を一人ひとり大事にし、“生きる力”をしっかりと伸ばす学校
2. 児童・生徒が共生社会へ出て、自立的にたくましく生きていくため、保護者、関係諸機関と連携し、支援ネットワークが構築できる学校
3. 児童・生徒が安全安心に通い、楽しく過ごせる学校

## 2 中期的目標

## 1 支援教育における専門性及び指導技術の向上

- (1) 小・中・高3学部を見通した教育課程となるよう改善する。
- (2) 授業の質の向上と平準化のため、教材・教具の充実と共有化を推進する。
- (3) ICT 機器の活用をさらに高め、新しい授業スタイルを構築する。
- (4) 経験年数の少ない教員の専門性や指導技術の向上を図る。

## 2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現

- (1) 卒業後の自立と社会参加に向けて、小・中・高3学部で一貫したキャリア教育を推進する。
- (2) 高等部教員のキャリア教育・就労支援に関する実践力を強化し、就労を支援する  
(フロンティアコースの卒業生徒数と同数の就労を目標とする。H29 就労数6人/コース生徒数6人、H30 5人/5人、R1 4人/6人)
- (3) 保護者に発信する進路情報を充実し、進路選択に向けた支援を強化する。
- (4) 生徒が地域への関わりを深める活動や、余暇活動・健康維持につながる取組みを推進する。

## 3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り

- (1) 個々の教職員が常に生徒の安全・安心をしっかりと守れるよう、情報共有しながら連携していく体制を構築する。
- (2) 会議や業務を効率化し、教員が生徒に直接的に関わる時間を増やす。
- (3) 生徒が毎日笑顔で通学し、教職員が心身ともに健康で職務を遂行できるよう、快適な学習環境・職場環境を構築する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>今年度の自己診断アンケートについて、提出率が昨年度と比較し、保護者は4ポイント、生徒(高等部)は3ポイント上昇した(教職員は100%)。</p> <p><b>【生徒向け自己診断の結果・分析】</b></p> <p>・昨年より5ポイント以上が下降した項目は、1番『学校へ行くのが楽しいですか。』、4番『先生は頑張ったことをほめてくれますか。』、5番『先生は困っているとき、助けてくれますか。』、8番『校外学習、宿泊学習、修学旅行は楽しいですか。』の4項目あった。達成基準(肯定的意見が全体の70%以上)に達しているものの、昨年度と比較して数値が下降している傾向にある。新型コロナウイルスの影響で学校での活動が制限されていることも原因の一つと考えられるが、引き続き丁寧な指導支援が必要である。</p> <p>また、8番『校外学習、宿泊学習、修学旅行』については、宿泊学習が中止になったり、校外学習や修学旅行がアンケート後の実施になったため、答えにくいという意見もあった。</p> <p><b>【保護者向け自己診断の結果・分析】</b></p> <p>・31項目すべて肯定的意見が70%を超え、達成基準に達した。16番『交流』に関する項目、20番の『PTA活動』に関する項目がともに8ポイント下降した原因は、新型コロナウイルスの影響により活動が縮小したことが考えられる。</p> <p><b>【教職員向け自己診断の結果・分析】</b></p> <p>・40～64番までの25項目では、41番『施設・設備』、46番『ICT機器の充実』、47番『ICT機器の活用』、50番『児童生徒会活動』、61番『教材・教具の利用』の5項目が70%に達しなかった。</p> <p>『施設・整備』については、高等部の数値が特に低く、日頃の清掃にもかかわらず、老朽化しているプレハブ棟の現状が大きく影響していると考えられる。屋外トイレについては、以前から改善してほしいという要望が強いので、引き続き府に要請をしていく。</p> <p>『ICT機器の充実』、『ICT機器の活用』については、TV機器の老朽化や不足、ICT機器の活用に関する研修の不足等が考えられる。今年度</p>	<p><b>第1回(7月31日)</b></p> <p>&lt;主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員及び事務局紹介</li> <li>・報告：学校経営計画、各学部の状況、卒業生の進路状況、新型コロナウイルス感染症対策</li> <li>・その他：学校教育自己診断の趣旨説明など</li> </ul> <p>&lt;主な意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスについて、情報共有や連携体制等を共に整えていきたい。</li> <li>・高等部の進路指導について、一般就労だけに焦点を当てるだけでなく、卒業後に必要な力をつけられたか、という視点で進めてほしい。</li> <li>・臨時休校中の児童生徒・家庭支援の方法として、教員が放課後等デイサービス事業所に児童生徒の様子を見に行くという方法もある。</li> </ul> <p><b>第2回(12月4日)</b></p> <p>&lt;主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学及び施設見学</li> <li>・報告：令和3年度使用教科用図書を選定、学校教育自己診断、学校見学会など</li> </ul> <p>&lt;授業見学の感想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍に対して、ICTを活用するなど、工夫しながら授業をされている。</li> <li>・子どもたちが集中していると感じた。子どもたちが頑張っている姿がうれしかった。</li> <li>・教科書を使った授業も見せてほしい。</li> </ul> <p>&lt;主な意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアサポートプログラムの取り組みでは、いろいろな商品を作り、多様な生徒にうまく対応させておられると思う。</li> <li>・入学希望者の増加傾向は、地域で認められている成果であると思ってほしい。</li> </ul> <p><b>第3回(2月24日)</b></p> <p>&lt;主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告：令和2年度学校教育自己診断、令和2年度学校経営計画の評価</li> <li>・令和3年度学校経営計画(案)、府教育委員会への提言について(案)</li> </ul> <p>&lt;主な意見&gt;</p>

## 府立八尾支援学校（高等部）

<p>中に、校内に無線アクセスポイントを37か所に設置するなど、校内インフラを今年度中に整備する予定である。</p> <p>『児童生徒会活動』については、新型コロナウイルスの影響で、活動が縮小したことが原因と考えられる。</p> <p>新設した『授業づくりに活用できる教材・教具の利用』については、授業記録の「アーカイブ化」が進んでいない、教職員への周知不足などが原因であると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校教育自己診断アンケートにおいて「先生はがんばったことをほめてくれますか。」という生徒対象の項目数値が下がっている。コロナ禍において、ソーシャルディスタンスを保ちながら、どのような支援・指導をしていけるか考えるべきではないか。</li> <li>• 近年、高等部卒業後の進路が多岐にわたっている。卒業後の進路の幅広い選択肢について、保護者に引き続き情報を発信すべきである。</li> <li>• 地域の学校園に在籍する児童生徒が増え、日々の様子等、放課後等デイサービスと学校が負担感なく共有できるような取り組みができればよい。</li> <li>• 保護者間で評判のよい「小中学部保護者対象進路学習会」は今後も積極的に実施してほしい。</li> <li>• 今年度とりまとめた校内統一書式の個別の教育支援計画について、八尾支援学校で学んできたことを校内外へ引き継ぐツールとして、十分活用されるようにしてほしい。</li> </ul>
--	--

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 ( ): H30、R1 年度高等部結果	自己評価 【保】保護者向け学校教育自己診断 【生】生徒向け学校教育自己診断 【教】教員向け学校教育自己診断
1 支援教育における専門性及び指導技術の向上	(1) 小・中・高3学部を見通した教育課程となるよう改善	① 全校教育課程検討会と連携し、3 学部 12 年間を見通したシラバスを整備する。  ② 生徒一人ひとりの障がい特性や教育的ニーズに応じた学習内容・指導・支援の方針の明確化して共有化する。	① 高等部の新しいシラバスを作成する。  ② 【保】「個別の教育支援計画」(83%→93%) ⇒ 維持する 【生】「授業は理解しやすい」(69%→79%) ⇒ 80%	① R2 年 12 月に全教科のシラバスが完成した。 ★引き続き、運用にあたってのマニュアルを作成する予定。 【O】 ② 【保】肯定的評価：93%（維持） 【生】肯定的評価：76%（▲3pt）。 【O】
	(2) 授業の質の向上と平準化のため、教材・教具の充実と共有化を推進	① 前年度に教材バンク PT から提案のあった内容を実行し、教材が活用しやすい環境を整備する。	① 教材バンクを利用した教材作成の実践例報告会を開催する。	① R3 年 2 月に実践報告会を開催した。 ★教具データやシラバスと関連づけながら、教材バンクのアーカイブ化を引き続き実施する。 【O】
	(3) ICT 機器の活用による新しい授業スタイルの構築	① ICT 活用をテーマにした研究授業を行う。 ② 他校事例を研究し、校内で活用する。	① 年間 2 回実施する。 【教】「ICT 活用」(84%→70%) ⇒ 85% ② ICT 関連の研究会や他校の公開授業を合わせて 5 回以上見学し、報告会を随時開催する。実践例報告会を開催する。	① R2 年 12 月に 1 回実施した 【教】肯定的評価：67%（▲3pt） 【Δ】 ② 研究会や研修等 3 回、参加した。 ●コロナ禍で他校の公開授業等に参加できなかった。 【-】 ★ICT 機器の貸出件数は、昨年度の約 100 件から、本年度は約 400 件に増加しており、利用状況は向上している。
	(4) 経験年数の少ない教員の専門性や指導技術を向上。	① 効果的な研修（校内・外部）を計画し、実施する。  ② メンターによる指導を充実する。	① 【教】「計画的校内研修」(93%→93%) ⇒ 維持する 【教】「専門性を高める」(93%→86%) ⇒ 90% ② 年 3 回以上、定期的に報告会を開催する。	① 【教】肯定的評価：89%（▲4pt） 【教】肯定的評価：65%（▲21pt） ●コロナ禍で計画通り実施できなかったため、評価が下がったと考えられる。 【-】 ② 初任者は 1 名であったので、定期的な報告会は実施しなかったが、一年を通してメンタリングを実施し、主体的かつ自発的な成長を支援した。 【O】

## 府立八尾支援学校（高等部）

2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの 充実による自立や社会参加の実現	(1)小・中・高3学部で一貫したキャリア教育を推進	<p>① フロンティアコースの授業内容を充実する。</p> <p>② 職業および生活実践のカリキュラムの見直しをする。</p> <p>③ 生徒の自己理解やマナー習得に結びつく学習を実施する。</p> <p>④ 小・中・高3学部の連携によるキャリアサポートプログラムを企画し、実施する。</p> <p>⑤ 高等部の生徒が中心となって、小・中学部の児童・生徒に「働くこと」のイメージを持てるような取組みをする。</p>	<p>① フロンティア生について、「キャリア能力に関する評価測定のための指標」が、1人2項目以上が前年度よりランクアップする。</p> <p>② 検討結果を報告書にまとめ、令和3年度からの実施に向けた準備が完了する。</p> <p>③ 【教】「キャリア教育」(93%→95%)⇒維持する 【保】「キャリア教育」(82%→90%)⇒維持する</p> <p>④ 前年度からステップアップして、中学部と連携した具体的なプログラムを実施する。</p> <p>⑤ 八尾アスレチックフィールドのメンテナンスを年間5回以上、小・中学部の清掃活動を年間5回以上実施する。中学部生徒を対象に企業実習体験の報告会を新たに実施する。</p>	<p>① 対象となるコース生：9名（2年生4名、3年生5名）全員の個別指標が2項目以上ランクアップした（5項目以上が7名）。 【◎】</p> <p>② PTにより報告書が提出された。来年度からコース生の社会・理科と生活実践の時間増、一般生の職業の時間増などを盛り込んだ時間割を決定した。 【○】</p> <p>③ 【教】肯定的評価：84%（▲11pt） 【保】肯定的評価：90%（維持） ★教員の自己評価の数値は下がったが80%以上であり、また、ビジネスマナーを含むマナーをテキストが完成し、各学年で使用しており、計画を達成したと自己評価する。 【○】</p> <p>④ 1月に商品販売を、対面方式でなく、事前注文方式で実施した。中学部との連携については、中学部で商品の仕上げ工程の一部や包装を実施した。 【○】</p> <p>⑤ 八尾アスレチックフィールドのメンテナンス（計9回）、清掃活動（計16回）を実施した。また、PTAと共同で花壇の整備も実施した。 R3年1月に高等部3名の生徒が、中学部生徒16名を対象とした報告会を実施した。 ★校外でのボランティア活動が計画通りに進まなかったため、校内での活動を増やした。 【◎】</p>
	(2)高等部教員のキャリア教育・就労支援に関する実践力を強化し、就労を支援	<p>① 進路指導に関する知識向上と指導力強化のため、研修やワークショップを開催する。</p> <p>② マッチング機会を充実するため、実習先を新規開拓する。</p> <p>③ 進路先の選択肢を増やすため、企業、障がい者就業・支援センターや福祉関連施設との連携を強化する。</p>	<p>① 教員に対する進路指導研修を3回以上、施設・企業見学会を5回以上開催する。 【教】「進路指導研修」(91%→93%)⇒維持する</p> <p>② 高等部全教員および小・中進路部教員により実習先を10社新規開拓する。 【保】「実習の取組み」(81%→90%)⇒維持する</p> <p>③ 企業就労人数 7人（R1は4人）3年生全員の進路が決定する。</p>	<p>① 進路指導研修は、夏季休業中に2回、3学期に1回実施した。見学会は、夏季休業中に5か所で実施した。 【教】肯定的評価：81%（▲12%） 【○】</p> <p>② 本年度は、コロナ禍で受け入れに難色を示す企業・施設が多かったが、7か所の実習先を新規開拓した。 【保】肯定的評価：90%（維持） 【○】</p> <p>③ 企業就労人数3人（うちフロンティアコース生は1人）。3年生全員の進路が決定した。 ●就労移行支援事業所（4人）や職業訓練校を受験（1人）するなど、卒業後すぐの就労ではなく、希望進路が多様化した。 【△】</p>
	(3)保護者に発信する進路情報の充実し、進路選択に向けた支援を強化	<p>① 保護者向け研修会と施設見学会を実施する。</p> <p>② 「進路だより」「進路通信」を発行して、きめ細かく情報を発信する。</p>	<p>① 施設・作業所合同説明会を開催する。また保護者向け研修会・見学会を10か所で実施する。</p> <p>② 「進路だより」「進路通信」を合計20回発行する。 【保】「進路に関する情報」(87%→94%)⇒維持する</p>	<p>① 施設・作業所合同説明会は、コロナ禍の影響で、当初の予定を延期し、昨年より規模を縮小（昨年18法人43事業所→本年10法人22事業所が参加）してR3年1月に開催した。 【○】</p> <p>② 年19回発行した。施設・作業所紹介ページを35施設から80施設に増やした。 【保】肯定的評価：93%（▲1pt） 【○】</p> <p>●進路情報は22回発行の予定であったが、春の一斉休校の際に年間計画を見直した。</p>

## 府立八尾支援学校（高等部）

	(4)生徒が地域への関わりを深める活動や、余暇活動・健康維持につながる取組みを推進	<p>① 校外ボランティア活動を企画し、実施する</p> <p>② 高等部全体で課外クラブを運営していく体制を構築し、クラブ活動を活性化する。</p> <p>③ 基礎体力向上の取組みを確実に実行する。</p>	<p>① フロント生による駅の清掃など具体的な活動を各学年年間2回実施する。</p> <p>② 次の項目を見直して参加しやすいよう環境を作り、部員が増加する（R1 部員数 12 人）。 ・内規 ・活動内容 ・運営体制</p> <p>③ 朝のランニングの周回数やスクワットの回数など、高等部全員が個人別に適切な目標を設定して、実行する。</p>	<p>①近隣の清掃活動 1 回を実施した。 ●近隣の清掃活動や福祉施設での活動を計画し、活動先との合意もできていたが、コロナ禍により急遽中止となった。その分を校内での活動に振り替えた。 【○】</p> <p>② これまで自主通学生だけが参加できたが、内規を変更し、下校時は保護者やデイサービスの迎えでも参加可とした。部員数は 18 人（運動部 12 人、文化部 6 人）に増加した。 【◎】</p> <p>③ 高等部生徒全員について、生徒と相談しながら個別の「体力向上プログラムシート」を作成し、目標を設定して実行した。 【○】</p>
3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り	(1)生徒の安全・安心をしっかりと守れるよう、教職員が情報共有しながら連携していく体制を構築	<p>① 指導チェックリストを活用しながら、適切な生徒指導と組織的な対応をする。</p> <p>② SNS に関する生徒指導についての教員向け研修を実施する。</p> <p>③ 各種防災訓練を実施し、課題を整理して対応を完了する。</p> <p>④ 防災関連マニュアルを見直し、必要に応じて更新・改訂する。</p>	<p>① 【教】「生徒指導の組織的対応」（88%→93%）⇒ 維持する</p> <p>② 外部講師による教員向け研修を 1 回以上実施する。</p> <p>③ 実施回数：8 回 新たに職員実働防災訓練を実施する。 【教】「防災教育・安全教育」（100%→95%）⇒ 維持する</p> <p>④ 職員実働防災訓練をはじめ、実施した訓練で生じた課題をもとに、関連マニュアル見直しを R2.12 月末までに完了する。</p>	<p>① 【教】肯定的評価：81%（▲12pt） ★生徒指導（特別指導）対応表などの文書を作成・共有し、指導の一貫性を図った。 【○】</p> <p>② R3 年 2 月に研修を実施した。教員対象に利用状況のアンケートを実施した。 【○】</p> <p>③ 実施回数：8 回 R2 年 12 月に職員実働防災訓練を実施した。 【教】肯定的評価：88%（▲7pt） 【○】</p> <p>●訓練実施回数は計画を達成したが、コロナ禍で一部の訓練を計画通りの内容で実施できなかったため、教員の自己評価の数値が下がったと考える。</p> <p>④ 例年とは違う環境での訓練となったが、課題を抽出し、マニュアルを改訂した。新型コロナウイルス対応マニュアルを策定した。 【○】</p>
	(2)教員が生徒に直接的に関わる時間の増加	<p>① 高等部内の業務分担の見直しをし、業務を標準化する。</p> <p>② 業務効率化のアイデアや、業務改善につながる課題提起を募集する。</p>	<p>① 【教】「労働条件改善」（28%→51%）⇒ 60% 【教】「分掌、学部、学年連携」（81%→74%）⇒ 85%</p> <p>② 教員から業務効率化のアイデア提案や課題提起が 1 人 1 件以上提出される。この中から、3 件以上の業務改善を実施する。</p>	<p>① 【教】肯定的評価：19%（▲32pt） 【教】肯定的評価：49%（▲25pt） 【△】</p> <p>●別途アンケートを実施したところ、教室の消毒・環境整備などの感染症防止対策の新しい業務や、予定していた行事等の変更対応など例年と異なる業務が増えたことが肯定的評価の下落につながっていると考えられる。</p> <p>② 提出件数：16 件（アイデア 9 件、課題提起 7 件）⇒ 5 件は実施済み。 ●業務改善 PT を別途に立ち上げ、上記のアンケートを実施した。このアンケートで別途、アイデアや課題も提起されている。また、例年と異なる業務が増えたため、従来の業務見直しに至らなかった面もあると思われる。 【△】</p>
	(3)快適な学習環境 職場環境の構築	<p>① 点検用紙に修繕完了チェック欄を設け、翌月に確認し、高等部関連施設の安全点検を徹底する。</p> <p>② 教職員による定期的な一斉清掃や、生徒の清掃実習により学校の美化を推進する。毎回の重点テーマを設定するなどの周知方法に工夫をして、効果的に実施する。</p>	<p>① 実施回数：月 1 回 【教】「施設・設備の整備」（63%→42%）⇒ 65% 【保】「安全な施設や設備」（63%→78%）⇒ 80%</p> <p>② 職員清掃：月 1 回 生徒・教員合同の一斉清掃：各学期 1 回 【教】「校内清掃活動」（58%→51%）⇒ 60% 【保】「校内清掃」（65%→74%）⇒ 80%</p>	<p>① 安全点検を毎月実施した。 【教】肯定的評価：42%（±0） 【保】肯定的評価：74%（▲4pt） ★教員対象に「快適な学習環境づくりに向けて」というアンケートを実施し、課題を把握。再確認した。 【△】</p> <p>② 職員清掃・一斉清掃を予定通りに実施した。清掃徹底日を設定し、全体周知を行った。 【教】肯定的評価：60%（+9pt） 【保】肯定的評価：74%（維持） 【○】</p>